

科目名		からだのしくみ2						年度	2025		
英語科目名		Body Mechanics 2						学期	後期		
学科・学年		鍼灸科 1 年次		必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員		山下俊樹		教員の実務経験		有	実務経験の職種		鍼灸師		
【科目の目的】											
人の体の構造や形態、そのしくみや機能などを基礎から学び、基本的な体の構造を理解するとともに、鍼灸治療に必要な筋骨格系の知識を修得し、経穴取穴で必要になる体表解剖・ランドマークを中心として、筋肉の骨の名称、靱帯や血管・神経などの軟部組織を理解し覚えていく。2 年次からの各論や治療論への道筋となるべく、次のステップへスムーズに進めるための基礎知識の修得を目標とする。											
【科目の概要】											
座学を中心に前期15コマ、後期15コマで構成。各項ごと的小テストとともに、期末試験結果を総合して進級判定を行う。 体表解剖を中心に学び、経穴との関連を理解するための基礎知識を習得する。前期には主に上半身、後期には主に下半身の関節構造を中心に学ぶ。関節の特徴的な作用、また関節を作用させる筋肉学び、触診することができる知識を習得する。 神経や動脈などの走行を理解し、安全な鍼灸治療を行うための禁忌部位などについても理解を深める。											
【到達目標】											
A:腰椎の特徴や機能を理解し、各部分の名称や、骨・筋肉、組織などの構造と働きを理解することを目的とする。 B:股関節の特徴や機能を理解し、各部分の名称や、骨・筋肉、組織などの構造と働きを理解することを目的とする。 C:膝関節の特徴や機能を理解し、各部分の名称や、骨・筋肉、組織などの構造と働きを理解することを目的とする。 D:足関節の特徴や機能を理解し、各部分の名称や、骨・筋肉、組織などの構造と働きを理解することを目的とする。 E:顎関節の特徴や機能を理解し、各部分の名称や、骨・筋肉、組織などの構造と働きを理解することを目的とする。											
【授業の注意点】											
授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示が有る場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。											
評価基準＝ルーブリック											
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力						
到達目標 A	腰椎～周辺の構造と機能を正確に理解し疾患や病態理解に運用できる	腰椎～周辺の構造と機能をほぼ理解している	腰椎～周辺帯の構造と機能の仕組みを理解しているが完全に覚えきっていない	腰椎～周辺の構造と機能を理解できない	用語の理解ができず、構造や機能を理解できない						
到達目標 B	股関節の構造と機能を正確に理解し疾患や病態理解に運用できる	股関節の構造と機能をほぼ理解している	股関節の構造と機能の仕組みを理解しているが完全に覚えきっていない	股関節の構造と機能を理解できない	用語の理解ができず、構造や機能を理解できない						
到達目標 C	膝関節の構造と機能を正確に理解し疾患や病態理解に運用できる	膝関節の構造と機能をほぼ理解している	膝関節の構造と機能の仕組みを理解しているが完全に覚えきっていない	膝関節の構造と機能を理解できない	用語の理解ができず、構造や機能を理解できない						
到達目標 D	足関節の構造と機能を正確に理解し疾患や病態理解に運用できる	足関節の構造と機能をほぼ理解している	足関節の構造と機能の仕組みを理解しているが完全に覚えきっていない	足関節の構造と機能を理解できない	用語の理解ができず、構造や機能を理解できない						
到達目標 E	顎関節の構造と機能を正確に理解し疾患や病態理解に運用できる	顎関節の構造と機能をほぼ理解している	顎関節の構造と機能の仕組みを理解しているが完全に覚えきっていない	顎関節の構造と機能を理解できない	用語の理解ができず、構造や機能を理解できない						
【教科書】											
東洋療法学校協会解剖学教科書／整形外科徒手検査法											
【参考資料】											
【成績の評価方法・評価基準】											
期末試験で100％評価する											
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。											

備考等

科目名	からだのしくみ2							年度	2025
英語科目名	Body Mechanics 2							学期	前期
学科・学年	鍼灸科 1 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	大下裕之	教員の実務経験		有	実務経験の職種		鍼灸師		
【科目の目的】									
からだのしくみ2では、自律神経の基本的な構造と機能について、そして表在感覚の伝導と骨格筋の運動について学習する。今後学習する臨床系科目や実技系科目を履修するうえでそれらに関する知識は必要不可欠なため、それらに対応できるだけの基礎的な知識を得ることを目的とした科目である。									
【科目の概要】									
人のからだの構造や形態、そのしくみや機能などを基本から学びます。									
【到達目標】									
A. 自律神経の基本構造とその働きについて理解できるようになる。 B. 表在感覚の伝導（受容器や伝導路）について理解できるようになる。 C. 骨格筋の神経支配そして運動調整について理解できるようになる。									
【授業の注意点】									
授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示が有る場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	自律神経の構造と機能を完全に理解し、それが障害されたときの状況を想像することが出来る	自律神経の構造と機能について完全に理解できている	自律神経の構造と機能はある程度理解できている	教科書で確認すれば自律神経の構造と機能を答えることができる	教科書で確認しても自律神経の構造や機能を答えることができない				
到達目標 B	表在感覚の伝導について完全に理解し、具体的な例をあげて説明することが出来る	表在感覚の伝導について完全に理解できている	表在感覚の伝導についてある程度理解できている	教科書で確認すれば表在感覚の伝導について答えることができる	教科書で確認しても表在感覚の伝導について答えることができない				
到達目標 C	骨格筋の運動調整について完全に理解し、それが障害されたときの状況を想像することが出来る	骨格筋の運動調整について完全に理解できている	骨格筋の運動調整についてある程度理解できている	教科書で確認すれば骨格筋の運動調整について答えることができる	教科書で確認しても骨格筋の運動調整について答えることができない				
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】									
解剖学（医歯薬出版社）									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】									
中間試験・期末試験で評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		からだのしくみ 2				年度	2025
英語表記		Body Mechanics 2				学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	自律神経	自律神経の構造と機能を理解する	1	自律神経の機能	交感神経と副交感神経の機能の違いが理解できる	3	
2			1	自律神経の構造	自律神経の構造が理解できる	3	
			2	自律神経の情報伝達	神経伝達物質と受容体が理解できる		
3		皮膚感覚の概要を理解する	1	皮膚感覚の基本伝導	皮膚感覚の基本的な伝導が理解できる	3	
4		温痛覚の伝導を理解する	1	受容器	温痛覚の受容器の種類と特徴が理解できる	3	
			2	1次ニューロン	1次ニューロンの種類と特徴が理解できる		
5	表在感覚		1	脊髄内伝導路	脊髄内伝導路の種類と特徴が理解できる	3	
6		触圧感覚の伝導を理解する	1	受容器	触圧感覚の受容器の種類と特徴が理解できる	3	
			2	1次ニューロン	1次ニューロンの種類と特徴が理解できる		
			3	脊髄内伝導路	脊髄内伝導路の種類と特徴が理解できる		
7		皮膚感覚を総合的に考える	1	受容器	感覚別の受容器の違いが理解できる	3	
			2	1次ニューロン	感覚別の1次ニューロンの違いが理解できる		
			3	脊髄内伝導路	感覚別の脊髄内伝導路の違いが理解できる		
8		錐体路を理解する	1	錐体路の種類	皮質脊髄路と皮質延髄路の違いが理解できる	3	
			2	錐体路の走行部位	錐体路の走行部位が理解できる		
9	骨格筋の運動	錐体外路を理解する	1	錐体外路の機能	錐体外路の機能が理解できる	3	
			2	関連する部位	錐体外路の関わる部位が理解できる		
10		運動障害	1	錐体路障害	錐体路障害が理解できる	3	
			2	錐体外路障害	錐体外路障害が理解できる		
11		骨格筋の支配神経を理解する	1	骨格筋の種類	錘外筋と錘内筋の違いが理解できる	3	
			2	神経の種類	$\alpha \cdot \gamma \cdot I a \cdot I b$ について理解している		
12	反射	反射の概要を理解する	1	反射経路	反射の概要と反射経路が理解できる	3	
13		筋伸張反射の機序を理解する	1	筋紡錘の働き	筋紡錘の働きが理解できる	3	
			2	ゴルジ腱器官の働き	ゴルジ腱器官の働きが理解できる		
14			1	膝蓋腱反射	膝蓋腱反射の発現機序が理解できる	3	
			2	腱反射異常	腱反射異常の病態が理解できる		
15	まとめ	神経の働きを体験する	1	膝蓋腱反射	正しい膝蓋腱反射を行うことが出来る	3	
			2	対光反射	対光反射を体験する		
			3	姿勢反射	姿勢反射を体験する		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等